教育委員会11月定例会　会議録

1　開催日時　　令和７年　11月　６日（木）　午後２時30分から午後３時まで

2　場　　所　　教育委員会室

3　出席委員

教　育　長	丸　山	陽　一
同職務代理者	近　藤	守
委　　員	田　中	亜希子

4　説明のために会議に出席した者

教 育 次 長	前　島	卓
教 育 次 長	唐　木	英　俊
教育次長副任兼 総 務 課 長	北　原	孝
学校教育課長	佐久間	清　也
保健給食課長	山　口	恭　司
家庭・地域学びの課長	藤　原	慶　治
学 校 支 援 官	酒　井	好　和
主　幹　兼 総務課長補佐	穂　川	さゆり

5　書　　記

総　務　課 庶務担当係長	児　島	真　季

丸山教育長が開会を宣した。

＜教育長あいさつ＞

全国で熊の被害が多発しており、長野市内でもほぼ毎日、熊出没による注意喚起情報が流れている。先月10日、11日には善光寺界隈に出没したということで、連休中であったが、近隣の小・中学校には厳戒態勢を敷き、連休明けは、教員が警戒にあたり、保護者には見守りを行っていただくなどした。熊はいつどこに出るか分からないので、引き続き学校への注意喚起や保護者へのメール等、注意を呼び掛けていきたい。

先頃、文部科学省が令和６年度の問題行動・不登校調査結果を公表した。小・中学校の不登校児童・生徒数は約35万4,000人ということで、12年連続して過去最大となった。本市の状況については、このあとの報告事項で詳細を御説明させていただくが、やはり過去最高を更新しているということである。増加要因としては、教育機会確保法やコロナ禍の影響だと言われているが、根本的な問題として、不登校を出さない学校の在り方について見直すべきところは見直し、多様な子どもたちを受け入れられるよう、学校の意識改革が必要だと思っている。また、学校外の支援体制として、ＳａＳａＬＡＮＤを拠点としたアウトリーチ支援をより充実させてまいりたい。

今月20日は、教育委員の皆様と川崎市の中・高一貫校を視察する予定となっている。中学校併設から10年を迎える市立長野高校の今後の在り方を検討するに当たり、参考とするため選定させていただいた。生徒数の減少が進み、県立高校の再編も進められている中で、選ばれる学校にするため、委員の皆様にも広い視野からぜひ一緒に考えていただきたい。

＜協議事項＞

協議１号「令和８年度長野市立長野高等学校生徒募集定員について（案）」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

佐久間学校教育課長が説明した。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

協議２号「学校給食費の改定について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

山口保健給食課長が説明した。

委　員　学校給食センターに視察に行った際、廃棄も多いという話を聞いたが、その辺りを工夫することはできないか。

山口保健給食課長

まずは、成長の段階に応じた量を提供しなければならないと考えており、栄養教諭の指導の中で、残食を少しでも少なくするという取組を行っている。残っている分を減らすということについて、すぐにできるかは難しいところだが、いただいた御意見を踏まえて検討させていただきたい。なお、現在、残食については、豚等の飼料として活用している。

委　員　給食費はこれで足りるのか。美味しく、もう少し豪華に、子どもたちに喜んで食べてもらうようにするには、もう少し副食などを増やさないとならないかと思う。先ほどの残食の問題についても、昔のように全部残さず食べるようにという指導ができなくなってきている。また、コロナ禍では黙食になって、楽しい食事の機会が少なくなってきており、十数年前から比べると、今の給食メニューも少し寂

しい感じがするので、そういったことも保護者に理解していってもらわないとならないと思う。安ければ良いのではなく、子どもに美味しいものを食べさせてあげたいという考え方を広めていくようにしないと、ますます残食が増えてしまうように思う。

丸山教育長

ぜひ、委員の皆様には、調理しているところだけでなく、学校で子どもたちが食べているところも御視察いただけると、色々と参考になるかと思う。

委　員　調理員の皆さんがとても丁寧に給食を作られていたので、そこで残飯が多いと聞き、残念に思った。給食は子どもたちに平等に栄養をと考えて作られているので、とてももったいない気がした。

委　員　他都市と比べると長野市は給食費が高いと言われているが、給食のメニューは良い方だと思う。他から来ていただいた方から、美味しいという声をよく聞く。食品衛生法で色々と厳しくなってきており、生ものなどはほとんど食べられなくなってきてしまっているが、もう少し豊かな食材で良いものを食べさせてあげたい。そのためにはもう少しお金がかかるということを理解していただけると良い。

丸山教育長

給食費の無償化については、まだ情報が入ってきていないか。

山口保健給食課長

入ってきていない。追加の情報はないが、今月には何か動きがあるかどうかといったところである。

丸山教育長

高校の授業料無償化の制度については、外枠ができてきた。首相の所信表明にも、小学校に対しては給食費の無償化をやると言っている。

委　員　一律で全国平均にするとなると、今の豊かな食材を提供することが難しくなるだろうから、長野市は大変かと思う。

丸山教育長

その辺りは、また来年度予算でやっていくしかない。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

＜一般行政報告＞

報告１号「令和６年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

唐木教育次長が説明した。

・本調査の不登校の定義は、病気、経済的事情、その他を除いた、年30日以上の欠席者である。
・令和５年度から令和６年度の不登校児童生徒数の増加率が減少している要因としては、小・中学校の新規不登校児童生徒数が減少したことが背景にあるのではないかと、国も同様の分析をしており、これは令和元年度以降初めて減少したものである。
・新規不登校児童生徒数が減少した要因の一つとして、校内教育支援センターなど、教室に行きづらさを感じている子どもたちが安心して過ごせる居場所が校内にもできたことから、不登校の早期対応につながったためだと考えている。
・一人一人の背景は違うので、学校、校内教育支援センター、ＳａＳａＬＡＮＤをはじめとした校外教育支援センター、今年から始めたアウトリーチ支援、フリースクール等も

含め、多様な学びの場が連携して、子どもを多角的にとらえて支援していくことが必要だと思う。
・本年度の本市におけるいじめの認知件数は、国や県と比較すると件数が多くなっているが、軽微なトラブルも見過ごさずにいじめの要件と照らし合わせ、認知をして適切に対応していることの表れと受け止めている。
・いじめ認知件数の減少の背景として、前年度に認知件数が多かった学校・学年・学級では特に丁寧に指導を重ねていただき、未然防止に努めていただいたことや、学級編成等の環境変化によって落ち着いてきたことが要因の一つではないかと考えている。
・補足として、長野県におけるいじめの認知件数は、小学校が減少、中学校が増加、全体としては減少、国においてはいずれも増加となっている。
・本市における重大事態の件数は多くなっているが、事案を把握し、いじめ問題調査委員でもある弁護士の助言を受けながら、法に則した適切なカウントをした結果と認識している。

委　員　不登校の状況については、コロナ禍等により、学びの一つとしてオンラインという選択肢が増えたことで、不登校でも学べる環境が整ったことは良いことだと思う。同時に、学校の役割は何かと考えると、小学校では、色々な人たちがいる中でコミュニケーションをとったり、一緒に何かをしたりなど、社会に出た時に役立つ力を学び、中学校では、意見を言い合って皆で協力しながら、違う意見だったとしても、何か物事をやり遂げるために一緒に切磋琢磨しながら関係性を作っていくことができるところが、良いと思っている。オンラインよりはＳａＳａＬＡＮＤやフリースクールなど、人と交流できるということが大事だと思うので、引き続きお願いしたい。いじめに関しては、グラフを見る限り、件数が減ってきており良かったが、見えないいじめが増えているのではないかという懸念がある。それをこれからどう対策していくかが課題だと思う。

唐木教育次長

不登校の状況についてはおっしゃるとおり、ＳａＳａＬＡＮＤでの様子を見ると、大勢が苦手で、最初は一人でオンラインでしかできなかったお子さんが、やがて自然と人との交流を求めるようになり、実際に出てきて人と関わる中で元気になっていくという姿もある。そういう場があり、色々なことにつながっていくことが大事だと思うので、情報を共有しながら、お子さんに合わせてつながりをつくっていけたらと思う。いじめについては、御指摘のとおり、見えなくなってきている部分もあるかと思う。学校はもちろん行政でも、様々なアンケートなどで、心の声をできる限り拾えるような目や耳を持って、それを基に実態をなんとか掴もうとやっている。部局を超えて、こども未来部に寄せられたものも共有し対応したいと考えており、引き続き努めてまいりたい。

委　員　子ども自身の自由さについて、子どもを真ん中にと言いながら、私からみるとかえって自由がなくなってきているのではないかと感じる。子ども自身で解決していく、子ども相互で関わり合いながらいくということが少なくなってきているのではないか。適切に入らなければいけないこともあるが、親や先生などが入りすぎてしまい、自分たちで解決していくという能力がついてきていないと、最近高校生と話して感じた。やはり、異年齢も含め、集団の中である程度子どもたちが自分たちで解決して、人間関係を学んでいくことは、相当自由にしてやらないとできない。そこのところが非常に難しい。したがって学校は何があるのかということだが、日本の学校制度はそろそろ限界ではないかと思う。どういう形で子ど

もたちが成長していくのかということをもっと考えていかないと、「個別化」が良い意味でなく悪い意味での一人一人になってきてしまっている。いじめもそういう意味で一人一人になってきてしまっているが故に、意見を表へ出さなくなってきている。集団の中で自分を出せなくなってきている子ども世界の中で、どうやって見つけ出すのか、大変難しい問題だと思う。

丸山教育長

30日、60日、90日、それ以上という数だけにとらわれず、中身が大事なので、これから色々と分析してもらい、分かったところで報告していただきたい。

＜その他＞

○教育委員会の主催、共催及び後援事業について（北原教育次長副任兼総務課長）

主催事業０件、共催事業０件、後援事業25件（賞状交付２件）

次回以降の日程確認（北原教育次長副任兼総務課長）

12月定例会　11月26日（水）午後３時　　教育委員会室

１月定例会　１月８日（木）午後３時　　教育委員会室

丸山教育長が閉会を宣した。

令和　　年　　月　　日

会議録署名委員

教育長

同職務代理者

~~教育委員~~

~~教育委員~~

教育委員